

銀河への片道切符

松本零士宇宙記念館

はやぶさ2の小惑星りゅうぐうへの着陸成功や、世界的人口爆発による人類の火星移住、人類初の月旅行など様々なワクワクするニュースが飛び交っている。このようなニュースを見る度、自分は宇宙には夢やロマンが詰まっていると思う。

北九州モノレールには銀河鉄道999がデザインされた列車がある。その作者である「松本零士」氏を偉人に選定し、銀河鉄道999や宇宙戦艦ヤマトの世代である人には子どもの頃のなつかささとロマンを、松本零士氏の作品を知らない世代には宇宙のワクワク感やSFブームの火付け役となった作品の世界観、これらを体感できる記念館を提案する。

建物は1層1層ねじることでファサードから見ると黒い面が徐々に小さくなって999が空へ飛んでいく様子を表現した。周りを囲んでいるスロープは黒色を線路、薄い青色を列車と一緒に飛ぶ彗星に見立てた。また、2本あることで生物の身体の中の宇宙規模で可能性を秘めているDNAのようにも見える。

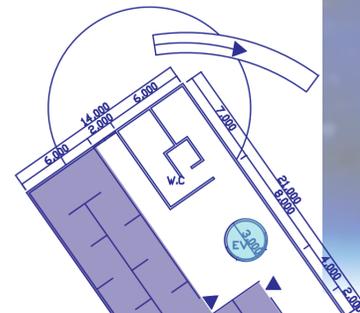
来館者にまた来たい、いや、ここから出たくないと思わせるほどのロマンを感じさせることで松本零士氏の「片道だけでもいいから俺を宇宙へ連れていってくれ」と言う宇宙への強いあこがれと共に顕彰したい。

面積表

概要	延べ面積：1,445 m ²
構造：S造	(内訳) 1~4階床面積：294 m ²
想定立地：福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目7	5階床面積：269 m ²



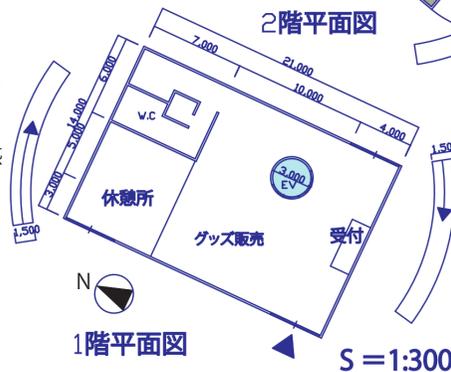
周辺敷地図兼配置図 S 1:3000



3階平面図

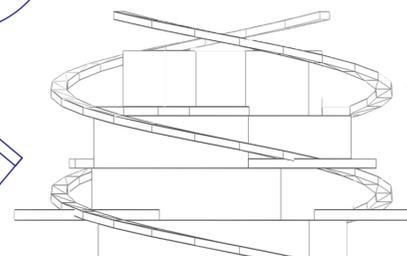


2階平面図

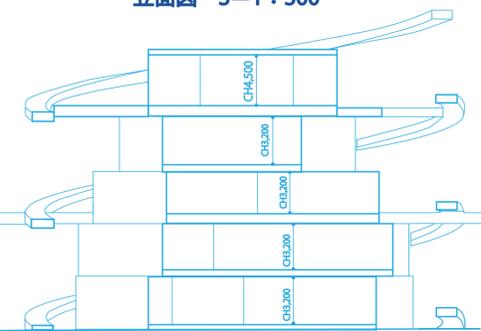


1階平面図

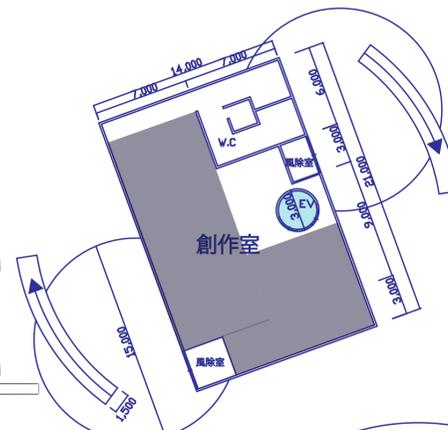
S=1:300



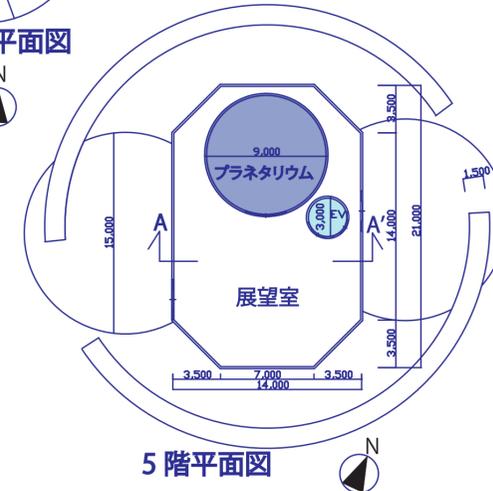
立面図 S=1:300



A-A' 方向断面図 S=1:300



4階平面図

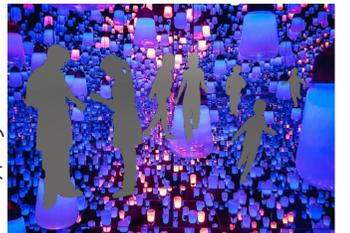


5階平面図

【4階創作室】

宇宙は上下の区別がつかないことから、床を鏡にして上下関係を判別しにくくさせた。来館した人が自分で思い思いの宇宙人や星を描いて壁に投影できるようにもしている。

1年を通して背景の絵が徐々に変化し続け、背景も含めて二度と見ることのできないシーンが来た度に目撃できる。描いた絵が壁に投影されるため、身体ごとその作品に入り込んでいく。そして他の人が新たに絵を生み出すことで世界が変化し、他の人と一緒に同じ世界に入り込む。



【5階展望室】

最上階はガラスを多用して今までの閉鎖的空間から抜け出したかのような錯覚を生ませる。

昼は海や周辺のランドスケープ、夜は星空や街の灯りを眺めることができ、きれいな星を眺めたいときはプラネタリウムで満点の星を見ることができる。一部は天井もガラスのため空にいるかのような気分を味わえる。



【3階展示室】

「銀河鉄道999」が1話完結である点から様々な星へ行ける体験型の展示室にした。ブース間は完全に仕切られてなく、簡単な壁で軽く仕切り動線をまっすぐにしていないことで、

ブース間のつながりをなくし別々の星にいるという感覚を与える。

この展示もCGを多く使用するため、昼や夜の時間帯、春夏秋冬の季節ごとでブース内の展示を柔軟に変えることができるフレキシブルな展示室にした。脱出ゲームや謎解きゲームのような平面だから特別展示などでこれらを期間限定イベントとして導入すれば、より楽しめる記念館になるであろう。



【2階展示室】

銀河鉄道の電車をイメージした。プロジェクションマッピングなどのCGを駆使して電車が宇宙へ飛び立つ雰囲気を創り、

3階より上の階が宇宙空間又は別の星へ行ったのだという感覚を与える。

スポットライトで明るい箇所と暗い箇所をつくることで、これから様々な星へ行くことができるというワクワク感と母と別れて1人で旅に出るという「鉄郎」の不安感を表現した。